

○報文：北海道で展開された草地植生改善の取り組みと今後の展開方法

(第84巻第4号掲載)

受賞者名：出口健三郎 殿 (地方独立行政法人 北海道立総合研究機構畜産試験場)

大塚 博志 殿 (ホクレン農業協同組合連合会)

酒井 治 殿、井内 浩幸 殿、中村 直樹 殿

(地方独立行政法人 北海道立総合研究機構酪農試験場)

有田 敬俊 殿 (地方独立行政法人 北海道立総合研究機構酪農試験場天北支場)

(1)北海道の酪農家戸数は、毎年200戸程度減少しており、地域によっては、基幹産業である酪農の衰退によりコミュニティ自体が崩壊しかねない危機的状況にあり、海外依存型である我が国の酪農の体質が穀類、資材、原油の輸入価格の変動が経営を不安定にさせ、大きな要因のひとつである。

(2)酪農の本質は、人間が利用できない「繊維」を基礎飼料として乳牛を飼養することであり、北海道は繊維質飼料を生産できる広大な土地を有している。この強みを利用して良質な繊維質飼料を乳牛に最大限活用させる技術の開発、それだけにとどまらず長命で連産可能な技術の開発を行い、それらを組み合わせて体系化し、生産現場に定着させることが、酪農経営を安定化させる一助となると考えられる。

(3)本論文は、「北海道型酪農」の出発点である、乳牛の主要な粗飼料である“草”に焦点を当て、植生悪化の要因を明確にし、イネ科雑草を除草剤で体系的に処理する方法、イネ科雑草との競合力が強い牧草を用いた方法による植生改善効果を示している。また、研究論文としての価値があるばかりでなく、生産者、農業技術指導者や農業関連産業に対して、わかりやすく、生産現場で実践しやすい内容となっている。さらには植生の改善を通じて粗飼料生産、乳生産の向上、経営の持続・安定化に寄与することが期待できる。

以上より、本論文は北農賞に値する優れた研究成果である。